

# カリキュラム作製における研究活動



友 田 静 恵

はじめに

戦後の、自由保育華やかなりし頃、カリキュラム不要論がとなえられたことがあった。しかし、教育のいとなみが、ただ慢然と幼児の興味や要求のみによって進められたとしたならば、その経験に片よりができ、精神的にも、身体的にも、好ましい人間としての成長は望めないと思う。だから、幼児を保育していくうえに、カリキュラムは必要かつ、欠くことのできないものといえよう。

しかし、それぞれの幼稚園に、びったりした、カリキュラムを作るといふことは、なかなか容易なことではない。だからつい既成のもので間に合わせておこうということになる。

洋服でも、レディメイドは割り安で、すぐ間にあうが、オートダームードとなると、値段も高く、柄や生地を選びスタイルを考えなくてはならない。そこにオートダームードの困難性もある。しかし、仕立上がってみると、各自の好みにあった、しかも体にあっ

た、着心地のよいものができる。カリキュラムもそれぞれの園の子どもの心や身体の発達にあったものをくふうして、作ることを望ましい。

カリキュラムを作るには、一定の方法があるわけではないが、本園のものを例示して参考に供しよう。

## 一、本園のカリキュラムの生い立ち

私の園ではじめてカリキュラムを作ったのは、昭和三十年二月である。それまではカリキュラムなしの、いきあたりばったりの保育をしてきたかというところ、そうではない。昭和二十七年度作成の、東京都教育委員会のカリキュラムを参考にして保育してきた。

こうして二年を経過、反省したことは、基本的な立場においては、そんなに喰いちがいはなかったが、経験内容において、多少本園の地域性とマッチしないものが感じられた。そこで、経験内容を社会的機能の面から分析して、本園にあうように改変してみ

自 然	言 語	音 楽 リ ズ ム	絵 画 製 作
<p>○お部屋に春の草花を飾る ・飾ることによって花の色や形を知らせる</p>	<p>〔話 し あ い〕 ○挨拶をする ・おはよう、さようならなどがいえるようにする ○名前をいわれたら返事をする ○自分の名前をいう お友だちや先生の名前をおぼえる ・友だちや先生の名前をおぼえることによってはやく幼稚園になれさせる ○必要なことは先生や友だちにいえる ・自分の意志がいえるようにする</p> <p>〔童 話〕 ○富子さんの風船、大きな玉、舌切雀、桃太郎</p> <p>〔紙 芝 居〕 ○雀の幼稚園、春の幼稚園、桃太郎 ・みんなといっしょに静かにみるようにする ・幼稚園生活の楽しさをわからせる</p> <p>〔人 形 劇〕 ○おりんごぼっくりこ、森の幼稚園 ・人形の動きを通して話のすじをわからせる ・人形の動きによって童話の世界であそばせる</p> <p>〔幻 燈〕 ○舌切雀、一寸法師 ・暗室をこわがらないようにする ・短い時間、注意を集中できるようにする</p>	<p>〔 歌 〕 ○チューリップ きょうからお友だち ちょうちょう 知っている歌 ・友だちといっしょに楽しくうたう ・歌詞をまちがえないようにうたう どならずにきれいな声でうたう ・声をそろえてうたう</p> <p>〔リ ズ ム〕 ○結んでひらいて ・動物の動作などをつけて楽しく表現させる ・楽器に合わせて手をたたく ・四分音符の長さを拍手しながら楽しくおぼえさせる ○ごあいさつ、みなさんおはよう ・リズムに合わせて簡単な動きを表現させる</p> <p>〔楽 器〕 ○結んでひらいて、タやけこやけ ・二拍子のリズム打をさせる</p> <p>〔レ コ ー ド〕 ○知っている歌 ・知っている童話をきかせて音楽的な楽しい雰囲気を作る</p>	<p>○桜の花びらを通してする ・自然物を活用することをわからせる</p> <p>○好きな絵をかく ・自由な表現ができるように気楽な気持ちでかかせる</p> <p>○色紙を三角や四角に切ってはる ・色の名と形を知らせる</p> <p>○組木、積木、粘土、砂場などで、好きなものを作る ・気楽な気持ちで作らせる</p> <p>○色まわらのつなぎものを作る ・色彩の感覚を養う</p>

たらということになった。  
 ちょうどこの頃、都の幼稚園研究会の研究授業も引き受けることになったので、それではいっそのこと本園独自のものを、作ってみようということになった。  
 まず、研究の手順として話しあった結果、  
 ○参考資料を集めて検討する  
 ○幼児の実態を調査する  
 ○地域性を調査する  
 ○小学校との関連を考慮する  
 ○これまでの保育の反省と実践記録を整理する  
 だいたい以上のようなことについて、研究することになった。

## 二、研究活動

月	單元	目標	指導の要点	経験	健康	社会
四 月	私 た ち の 幼 稚 園 (年 少)	1. 幼稚園生活の楽しさをわかせる	○楽しい雰囲気を作る	○入園式に参加する	○外で先生やお友だちと一緒に遊ぶ(あぶくたった、鬼ごっこ、砂場遊びなど) ・先生やお友だちと遊ぶ楽しさを味わわせる ○遊具で遊ぶ(すべり台、坐りぶらんこ、立ちぶらんこ、三輪車、積木など) ・幼稚園生活の楽しさを味わわせ、ゆずり合って使うように導く	○入園式に出て組名や園の先生の名前を知る ・組名や先生の名を知ることによりはやく園生活になれさせる ○式の間は静かにしている ・静かに式に参加する態度を養う ○体をきれいにし服装をきちんとする ・鼻や爪をきれいにし服装などに注意させる
		2. 集団生活になれさせる	○集団生活に適応できるように友だち関係を考える	○友だちと一緒に集団ゲームをする	○用便の仕方を知る ・用便が正しくひとりできるように導く ○用便のあと手を洗う ・衛生の習慣を養う ○用便を我慢しない ・幼稚園の便所をこわがらないようにする ○鼻汁をきれいにふく ・衛生の習慣を養う ○肝油を服用する ・肝油を喜んで服用させるようにする ○健康診断を受ける ・衛生の良習慣を養う ○身体をきれいにする ・清潔の習慣を養う	○自分の部屋のものをみて廻る ・部屋の中には各自で使用する戸棚や皆で使用する道具や玩具などのあることをわからせる ○便所の場所を知る ・男児用女児用の区別を知らせる ○自分の下駄箱、帽子掛、傘棚、道具、戸棚などを覚える ・ぬいだ靴やカバン、帽子雨具などをひとりで所定の場所にかたづけたり出したりするようにさせる
		3. 集団生活のきまりをわかせる	○子どもの知っているレコードなどを用意しておく	○友だちと一緒に歌をうたう	○童話や紙芝居、人形劇、幻燈などを見る	○幼稚園の道具の在り場所を知る ・積木、絵本、人形、砂遊び道具などの幼稚園の物の置場所を覚える ○幼稚園の部屋や庭を見て廻る ・自分の部屋、手洗い、便所、遊具、下駄箱などを知り白律的な行動がとれるようにする。

1. 参考資料を集めて検討する。

参考資料はなるべく多く集めることにした。これはあちこちのものを、ミックスして作ろうというのではなく、研究の無駄やまわり道を防ぐためであった。また、先人の研究を理解し、自分たちの感覚を新らしくし、より広い視野をもつためであった。

当時は、文部省の幼稚園教育要領もなく、よりどころとなるものは保育要領と、都の幼稚園教育課程だけであった。保育要領も今の教育要領のように、教育計画を作るための手引となるものではなく、主として幼児の発達や保育項目について解説的に記述されてあ

った。それで私共はより多くの資料を得るために、いろいろな研究会へ出て資料を入手することにとめた。こうして集められた資料について検討してみた。その結果はほとんどが、似たりよったりで、単元、目標、経験として保育項目がその資料のみを羅列したものであった。

たとえば、四月、

単元 私たちの幼稚園

目標 よろこんで幼稚園にくるようになる。幼児の活動 お話 紙芝居、人形劇、幻灯桃太郎、花咲命、社会見学 幼稚園の内外観察、桜、チューリップ、音楽チューリップ、知っている歌、レコード（以下省略）などのようなものである。

これでは、あげられた資料を、どのようなねらいで、どのように与えたらよいかわからない。だからカリキュラムを構成する場合、まず、その月月の幼児の活動としてどんなものが多くみられるか、幼児の要求はどんなものか、これを経験させる場合の教育目標は何か、教材はどのようにして選択したらよいか、などと、さまざまな角度から、検討して、たがいの経験領域がその効果を無理なく出しあえるようにくふうすることがたいせつであろう。中には教育の柱となる目標もあげずに保育資料だけをあげてあるものもあった。この中でとくに目をひいたものは、A園のもので、表現形式も他園のものとはちがいがい、まず、その月の幼児の姿が記され、単元名、目標、指導の要点、活動、備考として資料があげ

られてあった。これなどはその園のそれまでの実践を積みあげ、自分たちの手でひとつずつを確かめながら、作りあげた苦心のあとがうかがえた。やはりカリキュラムは、教師の頭の中で作られたものではなく、子どもの活動を通して実践しているあいだに、問題にぶつかり、これをひとつずつ解明しながら、作りあげなければならぬということを感じた。

## 2. 幼児の実態を調査する。

教育の仕事は、その対象となる幼児の発達や、能力などを知っておかなければ、すすめることができないといっても過言ではない。がしかし、ひと口に実態を調査するといっても、どこから手をつけてよいか、迷ってしまった。そこで今一度、保育要領を手がかりとして一般的な幼児の心身の発達段階を把握することにとめた。大体の発達はわかっている、やはり学問的な裏づけがあって、はじめて確かなものをつかむことができるのである。子どもたちの姿を、しっかりと把握することから、望ましい教育計画も生まれ、具体的な教育目標も定められるのである。これと併行して、一方では、当園の園児の発達と、興味、能力なども調べてみた。調査の仕方についても、園長以下四人の教師が、いくつかの試案を作り、組上にのせて検討し、いくたびか修正を加えて、ようやく成案を得た。それは大体次のようなものであった。

### 一、幼児の生活状況を調べる。

幼児の一日の生活の時間的な区分、遊びの種類、玩具の種

類、遊び場、友だち関係、休日の生活など。

二、幼児の興味、関心、既往の経験など。

三、幼児の要求、どのような活動を要求しているか。活動の好き、嫌いなど。

四、能力テスト

知能、体力、音楽、描画、言語など。

五、家庭環境について

人的な面、物的な面。

六、地域社会の要求を調べる。

地域の人たち、両親その他家族の人たちは、幼児および幼稚園に対して、どのような要求や考えをもっているかを調べる。

このような調査のめやすは立てたものの、その調査方法となると、なかなか困難をきわめた。しかし、子どもたちの実態を明らかにすることは、教育目標をより具体化するうえに、きわめて重要な仕事である。だから各教師が分担を決めて、それぞれ調査することにした。

このようにして、二十九年十一月、一応基本的な実態調査の結果を得て、カリキュラム構成に、生きた足場をもつことができた。

3. 地域性を調査する。

本園の地域は住宅街であり、文化施設にもわりあい恵まれてい

るので、これもカリキュラムに位置づけを考えた。調査の対象として、どんな文化施設があるか、教育に利用できる場所は教材に活用できる素材は、という点についてしらべてみた。

文化施設としては、新宿文化会館、新宿御苑。(本年三月園のすぐそばにフジテレビもできた。)

利用できる場所は新宿御苑、市谷八幡、月桂寺、弁天公園。

保育に活用できる素材は新宿御苑のドングリ、松笠、カラスウリ、落葉など。

以上のような文化施設や、公園などを利用するようにカリキュラムにおりこんだ。

4. 小学校との関連を考える。

本園は、牛込仲之小学校に併設されているので、小学校との関係はきりはなせないものがある。それゆえカリキュラムにおいても、小学校の教科、行事、施設、などを考慮した。遠足はとくに小学校との重複をさけるために一貫性をもたせた。

5. これまでの保育の反省と実践記録を整理する。

私たちは、立派なカリキュラムこそち得なかつたが、保育の実践記録は、まめにとったつもりである。すなわち、具体的な教育目標は、子どものあるがままの姿をとらえ、その伸びていくすじ道を、明らかにしなければならぬとさとしたからだ。だから、自由保育の場でも、頭をつきあわせてありんこの行列をみている場でも、メモをポケットにしるばせて、すばやく、しかも克明に

記録をとった。そのメモはやがて大学ノートに移され、職員会で討議され、仲之の子どもの姿として浮きぼりされた。また、私たちが自身の指導のあり方についても、園内で研究授業をやり、ひとりびとりがあらさがしをするのでなく、建設的な意見をのべた。これはお互が高められるのに多に役立ったようだ。このように保育の反省は次の保育に役立て、生かされるようにくふうした。カリキュラムを作るための努力は大半このような仕事に傾注された。

なぜならば、カリキュラムは教師が頭の中で作るものではなく、子どもの活動の中から生まれるものであるからだ。

### 三、カリキュラムの修正と改善

私たちは、三十年代以来、毎年少しずつ改善を加えてきた。教育要領にもべてあるように、教育の理論や実際は、かぎりなく進歩する。かつ、個々の教師についても年々進歩向上がみられるはずである。したがって指導計画も、常に進歩改善されなければならない。(教育要領三二頁より引用)とあるように、教育の理論も、幼児の成長も、教師の指導技術も、社会状況も日々進歩し、前進していくものである。だからカリキュラムだけがおきざりなされてはならない。今日のカリキュラムが明日も最善のものであるとはいわれなと思う。私たちの仲之教育も、三十一年度に教育要領がでると同時にこれを研究し、本園のカリキュラムに照合

して改変した。さらに三十二年度に、年長児と年少児の二種類にわけられ、三十三年度には、幼児の活動と各経験領域の目標が、より具体化された。昭和三十四年度は各経験領域から道徳的なものを抽出してみ、生活指導と道徳教育について研究していこうと着々準備を進めている。そのひとつずつについて詳述はできないが、カリキュラム構成の基準について記してベンをおこう。

1. 文部省の幼稚園教育要領に準拠すること。
2. 幼児の発達段階に即応し、興味や欲求を満足させるものであること。
3. 地域社会の特性を考慮し、その要求に応ずること。
4. 幼児の生活経験に即応し、活動的なものであること。
5. 教師の補導により目的、方法を自ら選択しやすいものであること。
6. 個性をじゅうぶんに伸ばすために、豊富な経験を与えるものであること。
7. 幼児の友愛と協力を推進するのに役だつものであること。
8. 幼稚園と家庭とが直結して、教育の目的を達成できるものであること。
9. 幼児の生活を円満に、豊かにし、しかも社会生活の基礎づけができるものであること。

(東京・牛込仲之幼稚園)